

平成十五年歌会始御製御歌及び詠進歌

町

御製

我が国の旅重ねきて思ふかな年経る毎に町はととのふ

皇后陛下御歌

ひと時の幸分さちかつがに人びとの佇たたずむゆふべ町に花ふる

皇太子殿下

オックスフォードのわが学び舎に向かふ時ゆふべの鐘は町にひびけり

皇太子妃殿下

いちやう並木あゆみてであふ町びとにみどり児は顔ゑみてこたふる

文仁親王殿下

暮し映す合掌造りの町並を見つつ歩めり妹いもと吾子らと

文仁親王妃紀子殿下

すずかけは夏陽にてりてあをあをと町ゆく人の上に影なす

清子内親王殿下

音すべてやみたるごとし北国きたぐにの町にしんしんと積もりゆく雪

正仁親王殿下

遠く見ゆる八甲田山は雪白く青森の町に木枯しの吹く

正仁親王妃華子殿下

町なかの花屋の店にあふれつつ春つぐるはなの色あたたかし

宣仁親王妃喜久子殿下

古き家軒をつらねて並びたる京の町並なつかしくして

召人 酒井忠明

今もなほ殿と呼ばれるることありてこの城下町にわれ老いにけり

選者 武川忠一

町といふことばはやさしふるさとの見知らぬ人にふと立ちどまる

選者 安永露子

楠若葉はやくれなるに炎ゆるなり城下しばらく男をの町なれば

選者 岡野弘彦

街川の瀬に立ちならぶゆりかもめ紅くれなゐの脚に冬日さしくる

選者 岡井隆

対岸の街に生あれたる鐘の音のイザール川をわたるときのみ

選者 島田修二

ふるさとは海辺の町の小さき駅少年老いて再会約す

選歌 (詠進者生年月日順)

新潟県 丸山一

わが街の大河にかかる新しき橋に新しき年の雪降る

神奈川県 岩間 旭

街川を鯔のひと群ひしめきてのぼり来る見ゆ汽水を分けて

福島県 武島常四郎

峠より見さくる町のわが家のあたりしづかに入り日を返す

山口県 久保田幸子

自らも発光しつつ煌ける街を照らして満月昇る

北海道 奥泉一子

夜をこめて町のいくつを走り過ぐ宗谷岬の風に遇ふまで

茨城県 野村喜義

対岸の温かさうな街あかり今宵は霧に繭のごと見ゆ

群馬県 関 弘子

坂のある町が好きだと言ふ君の声柔らかく耳に響けり

岐阜県 水野直美

ふとわが名呼ばれし気持ちに振り返る路面電車の走るこの町

三重県 岡本 恵

君が住むただそれだけで愛いとしくてあなたの街と呼びて親しむ

大阪府 鈴木文也

夕闇が僕の体を押してくる光へ走る夕暮れの街

佳 作 (詠進者生年月日順)

埼玉県 村勢登子江

街なかのわが家に残る掘井戸の水明りする水位を見つむ

栃木県 笹沼照江

竿灯が立ち上がるとき一斉に街はゆらめく灯の川になる

群馬県 坂本連子

ふるさとの小さき町よこの町に父といくたびか繭売りに来し

静岡県 後藤久子

この町を流れたゆたふ川に似て我も静かに生きて行くべし

大阪府 玉置芳子

ウィーンの街六角の木のタイル道を音やはらかに馬車の過ぎゆく

愛媛県 白峰 猛
白杖のわれは全身耳にして春一番の街中を行く

埼玉県 村田吉彦
やがてあの街道よぎりて妻は来む吾が退院の朝明けそめし

広島県 味岡紀子
片麻痺の夫の操る電動車日差し輝く街へ出でゆ

岐阜県 前田秀樹
雪おこす冬のいかづちとどろきて氷雨ひさめのしぶく宵の街ゆく

福岡県 佐々木功
街角の小さき古書肆に絶版の本を探せり古書匂ふかな

奈良県 澤井泰子
「斉唱」の絵の前にたち新生の神戸の街の風の音きく

福岡県 貝嶋信子
獅子舞の楽の音ひびき人ら寄る新年の日の地下街広場

京都府 小林晶子
大江山峠越えれば木の間より見え隠れせりわが住める町

徳島県 藤本和代
青葉区とふ新婚の子ら住まふ町緑さやけき風吹きをらむ

香川県 岡本千里
モノレールはビルの真中に突き入りて頭上に街あり眼下に街あり

大阪府 井出裕彦
この町のいづくにかあらむ君をおもひおもひてけふのゆふべのくれゆきぬ